ごんごうせき

八代市立
金剛小学校
学校だより
4月 No 1

正直に、親切に、慎重に

言葉を選ぶ

人が生きていくうえで、他人と共に生きていくという意識は必要です。中でも「話すこと」は重要なポイントといえるでしょう。人は言葉によって考えを他の人に伝え、良い影響も、悪い影響も、言葉が運ぶといえます。それだけに言葉遣いは心しなければなりません。

正しい言葉遣い。それには「正直に」「親切に」「慎重に」という三つのことを大切にしたいですね。

○「正直に」話すこと
人間同士の信頼に結びつきます。真実を伝えようと心がけることが、正しい話し手となる秘訣です。

○「親切に」話すこと
愛情を伝えることです。人を悲しませるような言葉はさけて、喜ばせるように話すこと。叱ったり、注意したりするときも、できるだけ思いやりをこめて話すことです。

○「慎重に」話すこと
自分の話すことが、本当に正しく親切であるかどうか、聞き手のために役立つかどうか、考えるべきです。自分も相手も大切にする上手な話し手になれる重要なカギです。

人は、言葉なくして生活することはできないといえます。家族、友人職場の同僚など、自分の意志を伝えるために実に多くの言葉を使います。何気ない言から誤解が生まれたり、間違った印象を与えてしまったりします。

一つ一つの言葉を大切にしていきたいですね。

子供は大人が手本です。

【熊本日日新聞社賞】

「げん関のおにぎり」

天草市立本町小学校五年　岡部　哲斉

「あっ、大変」。ぼくは、夜おそくまでテレビ映画を観て朝ね坊をしてしまいました。朝ご飯を食べないで仕度をしても登校班には絶対に間に合いません。

「何で何回も起こしてくれなかったの」と、ぼくはおこりました。すると、父と母から「何回起こしても起きなかった。早くねるように言ったのに」と注意をされてしまいました。

さらに、きちんと朝ご飯を食べて学校に行くように言われました。

「それじゃ、学校まで車で送ってくれる」と、ぼくは交かん条件を出しました。でも、「朝ね坊したのは自分のせいなのだから歩いて学校に行くように。今まで甘やかして何回か車で送ったからね坊しても大丈夫と思って起きないのだ」と、父からもっとしかられました。

「朝ご飯を食べたら走っても学校に間に合わない」とぼくは言い返しました。朝ご飯を食べないと勉強をしても頭に入らない。体育では思いっきり走れない、もしかしたら具合が悪くなるかもしれないと言い、母はおにぎりをつくってぼくにわたしてくれました。

でもぼくは、ふくれて、おにぎりを食べないでげん関において、学校に行きました。

学校には、全速力で走って行ったので間に合いましたが、一時間目のと中からおなかがすいてきました。その日は、いつもより給食が待ちどおしかったです。おにぎりを食べてくれば良かった。もっと早くねれば良かった。げん関に置いてきたおにぎりを見つけて母はおこっているのだろうと気になりましたが、いつの間にかそのことは忘れていました。

数日後、ぼくはまた朝ね坊をしてしまいました。そのとき、母はおにぎりを二個作ってくれました。この前より食べやすいように小さくしてくれていました。ぼくが食べないでげん関においていったことを知っていたのです。

ぼくは、せっかく作ってくれたおにぎりを食べずに行ったことをはずかしく思いました。早ね、早起きをしないのも、食べ物をそまつにしたのも、ぼくのわがままな考えからしたことです。それなのに、またおにぎりを作ってくれたのです。ぼくは、今度は残さずおにぎりを食べました。

父と母は、歩いて学校に行くことや、朝ご飯を食べることは、ぼくが成長していくのに大切なことだと教えてくれていたのです。そして、ぼくがおそくまで起きていたことが原因なのだから、人をたよらないで、自分で責任をとることも教えてくれていたと思います。ぼくは、きびしいと親に反発することがあります。けれど、ぼくはしなくてはいけないことより、自分の楽しいことをゆう先して後で困ることが多いので、本当は感謝をしています。いつも見守ってくれていて、ありがとう。これからも、よろしくお願いします。